

## 栄養プロファイリング

栄養プロファイリングとは、「疾病予防及び健康増進のために、栄養成分に応じて食品を区分またはランク付けする科学」と定義されている（世界保健機関：WHO）。主に加工食品について、含有する栄養成分の含有量により食品をランク付けするもので、諸外国では食品の包装前面の栄養表示、食品関連事業者による自社製品の改良、食品の健康協調表示に関する制限、幼児用食品の広告規制、栄養教育等の目的で活用されている。対象とする栄養成分は、栄養成分表示において義務表示であることや栄養参照量等が設定されていることに加え、WHO の栄養プロファイルモデルガイドラインでは国の公衆栄養事情を考慮すべきとされている。生活習慣病予防を目的とする場合は、過剰摂取が問題となる栄養成分等、すなわち、脂質、糖類、ナトリウム（食塩相当量）、エネルギーが対象となる場合が多い。一方、アジア諸国ではビタミン、ミネラルが不足傾向にあることから、補充すべき栄養成分も対象とされている例もある。

栄養プロファイリングの方法は、食品をカテゴリーに分類し、国の食事摂取基準等を参考に対象栄養成分の閾値を設定して、その含有量が閾値未満の場合はシンボルマークを付与するなどの閾値モデルと、食品全体を対象に対象栄養成分の含有量によりスコアを付与してランク付けするスコアリングモデルがある。前者は同一カテゴリー内の食品間で比較することができるが、食品全体を通して比較することはできない。一方、後者は、食品全体を通してスコアを比較することができるが、製品の栄養成分の改良等には適さない。また、食品カテゴリー毎に異なるモデルを当てはめる混合モデルや栄養参照量に対する割合と閾値モデルを併用したモデルもある。図に主な閾値モデル、スコアリングモデルと併用モデルを示した。

閾値モデル  
キーホール・ロゴ  
(北欧)



スコアリングモデル  
ニュートリスコア  
(EU 諸国)



併用モデル  
トラフィックライト  
(英国)



図. 主な閾値モデル、スコアリングモデルおよび併用モデル。

食品の包装前面の栄養プロファイルモデルの表示の健康効果について評価したメタ解析では、健康指標の改善との関連が認められている。食品の国際規格を設定するコーデックス委員会の表示部会では、包装前面栄養表示ガイドラインが公表している。日本においても今後、分かりやすい栄養成分表示の開発が進むことが期待される。

(石見 佳子)